

まちづくり座談会で出された意見と対応

No.	意見	町側のコメント	総合計画での対応
1	町長の公約は基本構想にどう反映されているのか。また、満足度・幸福度を重視する考え方は時代に合っており、耳ざわりも良いが、実際に若者が定住しにくい現状（職場がない・低賃金・休みがない）とは乖離しているのではないか。	人口減少を抑えることも大切であるが、それよりも「今住んでいる人の満足度・幸福度を高める」ことを最優先にしていく。	基本構想（町の将来像）に記載済み。具体的な取組みは基本計画で検討する。
2	将来像の文言が他人事のようで危機感が伝わらない。	表現の見直しを検討し、町の将来への危機感を住民と共有できるよう努力していきたい。	「町の将来像」の文言を見直す。
3	自治会や家族・地域とのつながりが満足度につながる面もあり、時代に合わせた柔軟な考えが必要である。	「共生」「共感」「共創」をキーワードに、町民とともに町をつくっていくという方針である。満足度向上の手段は多様であるべきと考えている。	考え方は基本構想の「町の将来像」に記載済み。具体的な取組みは基本計画で検討する。
4	「女性」「若者」と限定的に感じるが、他の年齢層には焦点を当てないのか。多様な人の活躍といってもイメージが曖昧である。	若者・女性に限定するのではなく、「町全体の幸福度を上げる」という意図としている。	基本構想（重点目標）に記載済み。
5	若者・女性の活躍と幸福度向上を重視した構想の方向性は素晴らしいため一緒に関わっていきたい。	幸福度を重視し、町民が「住んでよかった」と思えるまちづくりを優先し、移住者への過度な支出は抑制し、町民の暮らしを大切にしたい。	基本構想（重点目標）に記載済み。
6	地区計画実践の中で、若者の定住や女性の社会参加への関心が高くなっている。	女性の活躍は最重要課題であり、女性向けのセミナーや勉強会、生活拠点整備も検討していきたい。	基本計画（重点目標）で取組みを検討する。
7	計画には理想が多く書かれているが、財政が厳しい中、何ができてなにができないのかを明確にしてほしい。	第6次総合計画では、重点目標を掲げ、取捨選択しながら取組みを進めていく。	基本計画で取組みを検討する。
8	満足度が上がれば町から人が出ていかなくなるのではないか。	現住民の満足度を向上させることで、口コミなどを通じて自然と移住が促される町を目指していく。	基本計画で取組みを検討する。
9	まちづくり＝建物ではなくコミュニケーション重視で進めてほしい。	今後は既存施設の有効活用や縮小を含めた選択と集中、人づくりや対話によるボトムアップ型のまちづくりを進めていきたい。	基本計画で取組みを検討する。

No.	意見	町側のコメント	総合計画での対応
10	幸福度の平均値向上だけでなく、強みを活かす戦略が必要がある。	川西町は置賜の中心にある強みなどを活かす計画にしていきたい。	基本計画で取組みを検討する。
11	「緑と愛と丘のあるまちでは飯が食えない」として、抽象的な理想より現実的な産業振興が必要では。	具体的な取組みについては、基本計画で検討していきたい。	基本計画で取組みを検討する。
12	子どもたちが今住んでいる場所を好きになれる地域にしてほしい。そのためには住んでいる地域で、地域のひとと関わり思い出をつくるのが大切だと思う。	過剰な箱物整備はしないようにし、今ある資源を活用した取組みをすすめていきたい。	基本計画で取組みを検討する。
13	人材育成を最重視すべきで、町長交代を機に「ひとづくり」を見える形で示してほしい。	基本計画での重点施策として明記し、稼げる産業づくりもセットで進める。	基本計画で取組みを検討する。
14	若者が働く場所がなく、定住につながらないため産業誘致の必要性があるのではないかな。	大型工業団地整備は困難なため、通勤可能な町・住みやすい町の整備に注力していきたい。	基本計画で取組みを検討する。
15	二中を新築したが未活用で町立病院やシェアハウスへの転用を検討してほしい。	活用策としてコワーキング・会議室等への転用や補助金活用を検討中である。公共施設の統廃合も含め、財政健全化を前提に進めていきたい。	基本計画で取組みを検討する。
16	10年前から女性の活躍は言われており女性議会を実施したりと取組みは行ってきた。女性が地域で活躍するには、育児・介護などの問題点の解消策が必要である。なぜ、前に出てこないのか原因を考えてほしい。	女性の活躍機会を広げるための施策について検討していく。	基本計画（重点目標）で取組みを検討する。
17	若者の幸福度は向上すると思う。YYボランティアサークルを立ち上げたので若者の活躍を促進させていきたい。	若者の活躍を支援するための仕組み作りをしたい。70周年イベントで若者ボランティアを積極的に募集している。	基本計画（重点目標）で取組みを検討する。
18	若者・小中高生が主役になれるまちづくりの必要性があり、ふれあいを通じた学びや学校と地域の関係性を深めたい。	若者をキーワードに据えた重点目標を構想に表記し、子どもたちが帰ってきたくなるまちづくりを進めていきたい。子どもが川西に愛着を持ち、自分ごととしてまちづくりに参画できるよう育成していきたい。	基本計画（重点目標）で取組みを検討する。

No.	意見	町側のコメント	総合計画での対応
19	川西町は守備範囲が広く、インフラコストが高い。集落の分散は非効率なので将来的にコンパクトな町づくりに移行すべきでは。	国が進めるコンパクトシティは川西町の実情には合わない。分散集落の維持は農業・地域文化に不可欠で広域連携で水道や道路整備を効率化したい。	基本計画（基本目標１）で取組みを検討する。
20	老朽水道管の更新が急務で、20km以上が未更新である。	全面的な更新は困難で、補助金活用と広域連携による段階的な整備を進めていくが、いち自治体での単独維持は不可能で長期的ビジョンで対応する。	基本計画（基本目標１）で取組みを検討する。
21	まちなみの整備は考えているか。	大きな構想を描くことはできていない。令和１０年度にR287が全線開通をすることから、川西町のまちなかに誘導する整備をすすめていきたい。	基本計画（基本目標１）で取組みを検討する。
22	吉島地区は鉄道駅からも遠く、公共交通がない。高校生の通学も親が毎日送迎しているため、若者流出の要因でもある。	利用者の少なさから山交バスの路線も廃止され、デマンド交通に取り組んできたが、若者にとっては使いづらいため、今後は広域連携型のデマンドやライドシェアも検討し、改善を進める。	基本計画（基本目標１）で取組みを検討する。
23	免許返納者の移動支援を強化してほしい。	高齢者の移動・買い物支援に関しては利便性向上に向けて検討中である。	基本計画（基本目標１）で取組みを検討する。
24	消火活動が遅く、消防団の訓練や初期対応体制の見直しや地域住民への消防訓練も実施してほしい。	自主防災も含め、地域で初期対応できる仕組みづくりを検討し、消防署長にも意見を伝える。	基本計画（基本目標１）で取組みを検討する。
25	山林の倒木や土砂災害リスクも増えており、安全面への不安や子どもの通学路に歩道がない箇所があり、歩道整備が必要である。	倒木等については調査を行い国や県と連携して予算確保を進め、通学路の安全についても交通量の多い箇所を優先的に検討していきたい。	基本計画（基本目標１）で取組みを検討する。
26	若者が農業を継がないことが大きな課題であり、農業は川西町の主産業であるため、将来を見据えて担い手を育てる必要がある。	農家が継続できるよう、農業の収益向上と魅力発信を重視することや若者に就農してもらうには、農業で生活できることの実例提示が重要である。置賜農業高校と連携し、農業の魅力を伝える取組みやミーティングについても実施中である。	基本計画（基本目標２）で取組みを検討する。
27	やないづ観音など、地域資源を活かした観光振興をしてほしい。	町単独では限界があり、西川町・大石田町との「３町連携事業」による観光・物販のPRを展開予定で新たな視点で交流人口増加を目指す。	基本計画（基本目標２）で取組みを検討する。

No.	意見	町側のコメント	総合計画での対応
28	農業高校卒業生の就農者が少ない。農業収入の安定により税収増加も期待される。子どもの農業教育や大規模農業支援の強化をしてほしい。	教育を通じた担い手育成や大規模農業・オーガニックビレッジへの展開、収益性の高い農業を目指す。	基本計画（基本目標２）で取組みを検討する。
29	町の収入を増やす仕組みがあるのか。	稼げる産業づくりを基本計画に位置づけ、町民の収入向上を目指す。ふるさと納税の活用にも力を入れていく。	基本計画（基本目標２）で取組みを検討する。
30	ダリヤ園に来る観光客が町内にお金を落とさず帰ってしまうため、もっと滞在・回遊できるような仕掛けが必要である。	町のPR、店舗との連携に力を入れていくため、2025年度から3町（川西・西川・大石田）の観光連携を強化予定である。	基本計画（基本目標２）で取組みを検討する。
31	「マルシェ」の趣旨が分かりづらいため、PRを強化してほしい。	出品者の限定性を改善し、販売増加を図ることで新たな価値創出と活性化を図りたい。	基本計画（基本目標２）で取組みを検討する。
32	地域おこし協力隊の活動内容が見えにくく、町としての方針が不明慮である。	地域おこし協力隊は国の100%補助事業で、農業・フレンドリープラザ・まちづくり会社などに4名が配属されている。3年後に定住を目指す形で町も主体的に取り組んでいきたい。	基本計画（基本目標２）で取組みを検討する。
33	支出を抑えるだけでは限界で、町が「稼ぐ」手段を本気で考えるべき。	最も有効な収益手段としてふるさと納税を重視しており、現在3億円超から将来的に10億円程度を目指す。	基本計画（基本目標３）で取組みを検討する。
34	高齢者の施設入所待ちが多く、家族の負担が大きい。介護型老人ホームなど新たな施設整備ができないか。	一概に施設入所が最善とは限らず、在宅サービスも含め、本人・家族に合った支援を柔軟に検討している。また、高齢化と人口減を見据えて、空き施設の問題もあるため、新規整備は慎重に検討していきたい。	基本計画（基本目標３）で取組みを検討する。
35	高齢者向けスマホ教室やDX教育が不十分で医療機関への通院困難を解決するオンライン診療やスマートウォッチの活用を期待している。	スマホ教室を町として展開していきたい。オンライン診療は厚労省の制度整備が遅れているが、今後も注視していきたい。	基本計画（基本目標３、５）で取組みを検討する。
36	保育料や給食費の負担軽減は継続・拡大をしてほしい。	保育料・給食費などの経済的支援は可能な限り維持・拡充したい。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。

No.	意見	町側のコメント	総合計画での対応
37	通学・通勤の利便性や学童保育のあり方、高校・中学校再編なども含めて子育て世代が町を選びたいとなる戦略的計画をしてほしい。	住宅整備や通学体制、教育拠点づくりを戦略的に行う。高校は入学者が少ないが、県と連携して存続を目指していきたい。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
38	子どもが少ない地域では保護者の役回りが複数まわるため、精神的・時間的に負担が大きいことや犬川小存続とスクールバス・学校再編の議論も必要である。	小学校再編も含め、今後のあり方を住民と共に協議していく。スクールバスなど安心して通える環境整備も含め検討していく。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
39	個性を活かす教育への転換や図工専門科導入、社会で活躍する大人との接点を設けてほしい。	多様性を活かし、総合学習の時間などを通じた地域との接点拡大を図りたい。結果ではなく「過程」を評価する教育を推進し、自信を持った子どもを育てたい。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
40	全天候型の屋内遊戯施設が必要で、他町にはあるが、川西町にはない。	財政状況は厳しいが、まちなからテラスに遊具を設置予定である。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
41	幼稚園給食の内容が町内で格差があり、子どもの食育にも悪影響である。	美郷幼稚園の給食内容は課題と認識しており、改善を検討中である。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
42	専門相談口が必要ではないか。（発達・不登校・医療的ケア児など）	こども家庭センターや支援センターの周知強化、当事者の会などの設置検討を進める。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
43	SSW（スクールソーシャルワーカー）の人員増強が必要である。	SSWについては県の派遣で週２回対応中だが、より手厚い支援体制にしていきたい。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
44	出前講座の開催側（町）だけでなく、地域住民が参加しやすい工夫も必要ではないか。	広報面強化やターゲットを絞ってアプローチを図りたい。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
45	置賜地区で唯一、川西町にスポ少向けの野球場がない。	財政的に新設は困難であり、代替としてスポーツ講演会などを検討していく。	基本計画（基本目標４）で取組みを検討する。
46	若者定着や地域活性化を図るには、地元主体での新規事業が重要である。	地区への事業移管は重要であり、行政の見直しにもつながる。職員数削減と連動して進めたい。	基本計画（基本目標５）で取組みを検討する。
47	借金の多さに対する対応や人口減少下での投資判断はどうなっているのか。	借入は制限がある。今ある公共施設を有効活用し、再編も町主導で進める意向。	基本計画（基本目標５）で取組みを検討する。
48	自治会長のチラシ配布や回覧、集金負担が重すぎるため、タブレットやデジタル回覧板の導入やデジタルリテラシーの教育支援も必要である。	自治会長からの要望も多数あり、ペーパーレス・デジタル化に取り組むことや吉島地区のような先進事例を全地区に広げていきたい。	基本計画（基本目標５）で取組みを検討する。

No.	意見	町側のコメント	総合計画での対応
49	自治会の人手不足が深刻で、若い世代に役職や集金業務の負担が集中している。	自治会の合併や再編は住民主体での合意形成が前提。町として負担軽減策は模索中。なにかアイデアがあれば教えてほしい。	基本計画（基本目標５）で取組みを検討する。
50	団地では自治会未加入で子どもが差別されることがある。	共助の大切さを重視して新たな自治会が立ち上がった事例もあり、格差なく誰もが参加できる地域づくりを進めていきたい。	基本計画（基本目標５）で取組みを検討する。
51	公民館長は手当がなく負担が大きい、避難所整備も住民のボランティアとなっている。	自治会長・公民館長の手当や支援については財政状況を鑑みつつ検討していきたい。社会保障や地域施設の維持支援へ優先的に対応する方向である。	基本計画（基本目標５）で取組みを検討する。
52	財政難の中では、町民自身が役割を持つ必要がある。	まちづくりは町民との協働なしには成立しないことから、施策中に「町民の役割」を代入する方向で検討していく。	基本計画で「町民の役割」を記載することを検討する。
53	「医療の充実」は高評価だが、「健康づくりの充実」は低評価で整合性に疑問がある。	あくまで現時点の町民意識を表す参考データである。	データの見直しは行わない。
54	若者女性の活躍に関するアンケートは「当事者の意見ではない」ため信憑性に疑問	年代ごとでも、若者・女性の活躍に関する結果は低くなっている。アンケートはあくまで参考とし、今後多様な声を取り入れる。	データの見直しは行わない。
55	10年間の計画期間が今の社会変化には長すぎるため5年単位やPDCAを意識すべき。	より短期的な実行計画との連携が重要なため、柔軟に対応したい。	実施計画（3年単位）でPDCAサイクルを回すため、計画期間は変更しない。
56	広域組合の窓口について、一般町民が順番待ちする一方で、業者が優先され不公平であり、入口分離や時間帯調整を検討してほしい。	自身も不快感を覚えた経験があり、広域組合に町民の声を届け、検討する。	—
57	消火栓の水圧が低く、改善されていない。	水圧については調査中である。	—
58	犬川・大塚地区は毎年水害に悩まされており、長井市の狭窄部がボトルネックになっている。国への働きかけが必要ではないか。	治水については国へ要望中である。	—